

令和元年度第1回 新潟県・新潟市調整会議あいさつ(要旨)

日時：令和元年8月7日(水) 13:10～
会場：新潟県庁 201会議室

■ 新潟県知事 花角 英世

新潟市は、港湾や空港、新幹線を有しており、また、県内人口の3分の1を抱えている、まさに新潟県の顔であると言える。その顔である新潟市が元気でないと、新潟県も元気になれないので、新潟市としっかり連携を深めて、コミュニケーションを良くしていきたいと思う。

中原市長就任後も、万代島地区将来ビジョンやG20農業大臣会合などで連携しているが、調整会議という場で、まとまった時間しっかりと共通のテーマで市長と話ができることは、本当に貴重な機会であり、本日の会議を意義あるものにしてまいりたい。

県も市も非常に厳しい行財政改革という喫緊の課題を抱えているが、お互い知恵を出しながら、ものごとを前に進めてまいりたい。

■ 新潟市長 中原 八一

前回昨年7月の調整会議においては、新潟市の都市機能向上について、北川顧問と西村まちづくりアドバイザーのもとでまちづくりの理念となる「新潟都心の都市デザイン」を策定し、同じ方向感を持って、県と市が協力・連携しながら取組を進めることを確認した。

現在、この都市デザインに基づいて実践段階に入っており、今まで以上に県と市が協力、連携しながら都市機能向上に向けた取組を進めていくことが大変重要と認識している。

特に駅周辺整備においては、令和3年度に高架駅が全面開業する。また、令和4年度には高架下交通広場が完成し、市街地の南北の分断が解消されるなど、新潟の玄関口である新潟駅周辺地区が大きく姿を変えることになる。県と市が一緒に取り組んでいることを示すことで、民間活力も新潟に向かい、まちづくりが加速するものと思っている。

私は昨年11月に市長に就任して花角知事と色々な場面で意見交換させていたが、本日の会議では、新潟市の都市機能の向上に向けた取組の土台となる「新潟都心の都市デザイン」に基づく実行段階の取組、具体化への取組状況を中心に、北川顧問からのご助言も賜りながら、闊達な意見交換ができることを期待している。